

## USA ●アメリカ

笑えないアメリカの高齢者続出か？  
治療費が高く歯科受診を躊躇

59歳のBurton夫人は、喪失した歯が多く、残っている歯も動揺や破損により痛みが激しい。そのため、歯ごたえやかみごたえのある食べ物は食べられず、何を食べてもおいしさを感じることはない。歯科医に相談したところ、治療には約1年かかり費用は300万円ほどと提示されたが、とても払えるような金額ではない。恐ろしくて人前で笑ったり口を開けることはできないという。

アメリカでは何百万人もの人々が歯科医療機関でのケア(健診、予防処置、保健指導、治療等)を受けていない。日本と違い全国民強制加入の公的医療保険制度がないアメリカには4,600万人もの医療保険未加入者がおり、さらにその倍以上となる1億800万人が歯科をカバーする保険に未加入である。65歳以上の高齢者向けの公的医療保険「メディケア」では、通常の歯科受診は給付範囲に含まれず約75%は歯科を受診していない。このように気軽に歯科受診できない状況は長年アメリカ政府から無視されてきたが、ベビーブーマーが退職し、歯科受診もカバーされていた雇用保険からメディケアに切り替わる人が増えてきたこと、口腔疾患が糖尿病や心臓血管系疾患等の医科領域の深刻な問題を引き起こしたり悪化させる証拠を示す研究結果が増えていることから、早晚この問題に政府の注意が向くようになるであろう。

歯周病の原因菌が口腔内から血流に乗って心臓や他の臓器へ到達することを示す研究報告は多く、歯周病と他臓器の炎症の関連の研究が盛んに行われている。ある大学と保険会社の共同研究では、糖尿病、動脈硬化、心筋梗塞の既往のある保険加入者を追跡したところ、歯周病の早期治療を受けた人は、そうでない人よりも医療費が低かったことがわかった。

アメリカでは、2000年5月に公衆衛生局長官が、口腔疾患が「静かなる流行病」であることを初めて報告し、保険でのカバーが十分でないために、治療費の支払いが障害となり受診を思いとどまらせていることに言及した。現在もこのときの状況とは少しも変わりがない。民間の保険会社も歯科受診をカバーする保険を販売し始めているが、民間保険を利用した受診は、歯科受診全体の約2%にすぎないといわれている。フッ素入り歯磨剤の普及、水道水フッ素化および予防歯科の進歩により、現在の高齢者は昔の高齢者より多くの歯が残っているという明るい面もある。しかし、コロンビア大学のLamster氏は、歯は60～80年も使うものであるから、歯を維持していくためには十分なケアが必要であることを訴えている。

(佐々木健 厚生労働省老健局計画課認知症対策推進室専門官)

参考：『AARP Bulletin』2006年9月号/AARP

## USA ●アメリカ

医学生への患者への接し方を  
模擬患者の俳優が評価

医師が患者に心ない言葉を発したり、見下した態度をとるなどドクター・ハラズメント、いわゆるドクハラが日本でも問題になっているが、アメリカでは、演技のプロである俳優が患者にふんし、診療後に医師のタマゴの患者への接し方を評価し、治療にあたる方法を指導している。

アメリカの医師国家試験機構は2004年から全米の臨床医学の卒業生に、患者の健康診断や診療をする際に、患者にどのように話したり、病歴を聞いたりするかなどを評価するテストを課している。基礎的な学識や臨床知識などについてのペーパー・テストだけでなく、患者にどのように接するかの評価テストにパスすることを病院開業の資格として義務づけている。

アメリカの『AARP Bulletin』2006年11月号の記事によると、現在アメリカの医学専門学校の3分の2は若い医師たちに、患者への接し方を身につけさせるために、模擬患者として俳優を起用している。応募した俳優は研修を受けたうえで一定の標準化された患者役を演じ、医学生の診療を受けて、その態度や質問の内容などをチェックする。

医学生はあらかじめ模擬患者であることや、診療の様子がビデオで撮影されていることを知っているが、診療の結果は専門家によって厳しく評価される。チェック項目は「気楽な感じがしましたか」「あなたの苦言や状況を聞きましたか」「専門用語の使用を避けましたか」「あなたに対して敬意と共感を示しましたか」など。中にはぶっきらぼうで、無神経な態度をとる医学生や、患者が痛みを訴えているのに手をこまねいて眺めているだけの医師もいたなどと紹介されている。患者役の俳優には詳細な経歴、病歴などの情報が与えられている。医学生は迫真の演技に的確に対応しなければならないが、患者への接し方だけでなく、医学的なスキルアップにもつながる実践的な方法であると評価されているようである。

このように医学生の臨床能力を総合的・客観的に判定するために開発された評価方法は通称「オスキー\*」と呼ばれ、いま日本でも注目を集めている。ペーパー・テストでは測ることのできない「医療面接」の能力を、模擬患者を相手とするロールプレイで育成する教育・評価方法として、導入する医科大学が増加の一途をたどっている。厚生労働省でも将来の医師国家試験へのこの評価方法の導入が検討されており、「オスキー」は今後我が国でも急速に普及すると予測される。

(渡川智明)

\*OSCE (Objective Structured Clinical Examination = 客観的臨床能力試験)